

**【第295号 紙面案内】**

第2～3面…理事会報告、常任理事会報告、役員・名誉会員一覧

第4～7面…第72回全国研究大会関連

第8～10面…部会報告、各種連絡

**第72回全国大会統一論題解題**

大会実行委員長 大杉 奉代（香川大学）

第72回全国研究大会は、10月23日（金曜日）、24日（土曜日）、25日（日曜日）の3日間、「産学連携のマネジメント」を統一論題に、香川大学幸町キャンパスにおいて開催されます。

「産学連携のマネジメント」という統一論題は、これまで学会の統一論題で、地域企業、企業家精神、イノベーションといった内容を最近取り上げてきた流れを反映したものです。企業は、規模の大小を問わず、単体で事業を展開するだけでなく、他の組織体との関係を形成しながら行動することが多くなってきました。特に地方創生という最近の情勢、さらに新たなベンチャー創出の機運を考えると、本学会が目指す実・学一体という特色を生かす時代でもあると考えます。

産学連携は、産（企業側）から学（大学等の研究・教育機関側）との連携の意味、効果を考える場合と、学から連携の意味や効果を考える事も出来ます。しかし、ここでは、産の側、学の側でもなく、連携それ自体が独自の意味と効果を持つことに注目する点が看過されてはなりません。企業の側では、オープンイノベーション思考の浸透により、新たなベンチャー企業の創出を、大学等では大学発ベンチャーの創出を推し進めてきました。そして、産学連携における連携そのものの主体性、組織化がNPOという連携機構、新たな事業体を生み出しています。学の所有する知的財産と産の持っている経営資源、モノづくり能力、マーケティング能力などを有効に結びつけるマネジメント力が産（企業側）、学（大学等の研究・教育機関側）に求められるのです。

そこで、第72回全国研究大会の特別講演では、国内カタログ通販の草分け的な存在であり業界第3位の売上を誇っている株式会社ディノス・セシールの上田昌孝氏を招聘し、経営や経営実践の在り方や考え方についてと、産学連携についてのお考えをお話いただきます。

我々、大会実行委員一同、これらさまざまな工夫も盛り込みながら鋭意準備して参りますので、多くの皆さまのお越しを心より、お待ち申し上げます。

なお、この時期の高松は、紅葉が色づく観光シーズンです。ご参加の皆さまには、ぜひ早めのご旅行の手配をお願い致します。